



2022年7月1日

昨日、さわかみ投信株式会社の経営を刷新しました。経営陣を入れ替えただけではなく、経営の方向を大幅に修正させました。

もともと、同社は世にある一般的な運用会社のように、成績を追いかけてはその評価を仰ぐことで良しとはしていません。お客さまからお預かりした大事なお金に、しっかりと働いてもらう。それも、人々の生活に欠かせない事業を展開している企業を、とことん応援していく方向で金に働いてもらうのです。応援という以上は、経済の状況が思わしくなかったり、投資環境が悪くマーケットで売り叩かれているような時ほど、本格派の長期投資家らしく、その企業の株式を断固として応援買いに入るのです。景気が回復したり投資環境が良くなってマーケットに投資家が買い群がってきたら、少しずつ売り上がって行って利益確定します。そのうち、また大きく下げたら再び応援買いに出るのです。この繰り返いを淡々と繰り返していけば、それなりの成績は後からついてきます。これが長期投資です。

今回の経営刷新は、同社を本来あるべき方向をより鮮明に打ち出していくべく、黒島に復帰してもらいました。なお、前取締役最高投資責任者の草刈には、親会社である、さわかみホールディングスで新たな任務についてもらいます。

創業者・株主
澤上 篤人

.....

これからの“さわかみ投信”について

昨日(6月30日)に開催された弊社株主総会において、経営体制の大幅変更が決定されました。具体的には、取締役最高投資責任者に黒島光昭が就任し、それに伴って前任の草刈貴弘が弊社の親会社である“さわかみホールディングス”へ異動となりました。また、取締役であった水上成憲は従業員として今後も弊社で励む予定です。

この度の体制変更は、弊社そのものが変わることが求められた決議だと認識しております。したがって以下に、これからの“さわかみ投信”について述べさせていただきます。

まず、私たちは改めてワクワクする会社を目指します。野武士集団のようなかたちで生まれた弊社は、皆さまの支えもあって、おかげさまで大きく成長するに至りました。その過程で様々な現実を知り、大

きくなったがゆえに挑戦する気概の割合が減ってきたようにも思います。それはレポート等をご覧いただく中で皆さまも感じていらっしゃるかもしれませんが、しかしそれは本来、目指すべき“さわかみ投信”の姿ではありません。もちろんながら、皆さまの大切な資産を預かる金融機関としての務めは引き続き十二分に果たす覚悟ですが、同時に「さわかみ投信って面白いね。ちょっと変だけど元気だよね」と感じていただくこともまた、私たちの存在理由だと考えております。かつての野武士集団に戻るとは申し上げませんが、皆さまにお会いする機会に、またはレポート等から滲み伝わる“さわかみ投信”は、もっと面白がっている存在でなければなりません。そのあたりをあらゆる角度から、社員一同、前を向いてチャレンジしていきます。

次にスピード感の向上です。上述の「ワクワクする」にも通じるところですが、守るべきもの・リスクに過敏に反応し、攻め手となる行動が抑制されては意味がありません。守りつつ・リスクを抑えつつも、ファンド仲間の皆さまや世の中が求めるものは何だろうと深く考え、そして行動していくことが肝要です。「常に世の中の2～3歩先を進む」がそのイメージで、それが10歩先でも後追いでもダメなのです。投資は未来の可能性を応援する行為、それと同様に皆さまに向けたサービスも、投資運用のあり方も、後から見て「なるほどな」と思っていただけの速度で走り続けます。変わることを恐れるのではなく、気概を持って楽しんで走る所存です。

最後に、これからより一層、長期投資のおもしろさを伝えてまいります。企業調査から見える未来の姿にはとてもワクワクさせられます。私たち長期投資家はそんな未来を現実のものにすべく、長期投資という方法で企業を応援しているのです。そういったワクワクは私たちの中で留めておくのはもったいない…ファンド仲間の皆さまとも共有し、ともにワクワクしていきたいと考えています。昨今の相場は極めて難しい局面にあります。そのような中で“さわかみファンド”がどのように乗り切るのかを説明申し上げることは重要です。しかし乗り切る先には、常にワクワクする気持ちがあるのです。つまり、その先まで皆さまと共有できれば、荒波だろうと凪だろうと笑顔で船を前進できるものと信じております。もちろん、私たちの投資哲学は進化こそすれ不変です。

ファンド仲間の皆さまにおかれましては、急な経営体制変更でご不安な点もあるかと存じますが、私たちは皆さまからの更なるご期待・信頼にしっかり応えるべく尽力いたします。運用成績の安定向上、そして皆さまの大切な資産・情報を守り抜く堅牢さを高めていきつつ、未来に向けて皆さまに喜んでいただけるよう新体制にて大きな一歩を踏み出してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、新任の黒島は“さわかみ投信”の二代目社長(2011年～2012年)であり、経済産業省系の研究機関で様々なことを吸収し戻ってきた人物です。“さわかみホールディングス”へ異動となった草刈とともに、今月末発行の月次レポートにて彼らの思いの丈を皆さまにお届けする予定です。

さわかみ投信株式会社
代表取締役社長 澤上 龍

さわかみファンドについて

- 経済の大きなうねりをとらえて先取り投資することを運用の基本とし、その時点で最も割安と考えられる投資対象に資産を集中配分します。
- 将来価値から考えて、市場価値が割安と考えられる銘柄に選別投資し、割安が解消するまで持続保有する「パイ・アンド・ホールド型」の長期投資を基本とします。
- 「割安であること」の判断の精度を維持・向上するために、経済全般および個別銘柄について徹底したリサーチ活動を継続します。

当ファンドは、運用の成果について目標とするベンチマークは設定しません。上記のスタイルを一貫し、これを変えることは致しません。当ファンドの運用にあたっては、短期的な成績向上を狙うような無理な投資はしませんが、必要と考えるリスクは敢然と取ります。また、長期的な運用成果を向上させるため、株主総会での議決権行使なども積極的に行ってまいります。

当ファンドの運用方針は長期運用を前提としているため、ファンド資産の激しい変動は運用効率を著しく阻害しますので、短期保有目的でのご購入はご遠慮ください。

お申込みメモ

リスク	さわかみファンドは、主に国内外の株式や債券など値動きのある有価証券等に投資します。そのため、組入れた有価証券等の価格、外国為替相場等の変動により、当ファンドの基準価額は影響を受けます。これらにより生じた利益および損失は、全て当ファンドの投資者（受益者）の皆さまに帰属することとなります。また、元本および利息の保証はなく、預金保険の対象ではありません。したがって、投資者（受益者）の皆さまの投資された元本は、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。その損失に耐えうる以上に当ファンドに対して投資することはご遠慮ください。投資信託は預貯金とは異なります。		
購入時手数料	ありません。	信託報酬	当ファンドの純資産総額に対して、1.10%（税込・年率）です。
信託財産留保額	ありません。		
その他費用・手数料	当ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引等に要する費用、一部解約金の支払資金の手当を目的とした借入金の利息は、信託財産中から支弁します。※これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。		
留意事項	投資に当たっては、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をよくご覧いただき、ご自身で判断してください。「投資信託説明書（交付目論見書）」のご請求は「ご縁の窓口」（TEL:03-6706-4789）までお申込みください。		

【ファンドの委託会社その他の関係法人の概要】

- 委託会社: さわかみ投信株式会社
- 受託会社: 野村信託銀行株式会社
- 販売会社: さわかみ投信株式会社



さわかみ投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第328号 一般社団法人 投資信託協会 会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員
〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2

TEL:03-6706-4789 FAX:03-5226-7981 <https://www.sawakami.co.jp/>